

ハンドボール



日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. 13

No. AC

(16名用)

スローオフチーム 山口県

A	山口県	埼玉県	B
合計	22	17	合計

大会名	第67回国民体育大会 ぎふ清流国体		
H.24年	10月7日(日)	場所	飛騨高山ビッグアリーナ
種別	少年	回戦	第3回戦 準決 決 リーグ

A 7m TC 和久長義 B

A 山口県		警告	退場	失格	チームタイムアウト	
役員A	倉谷 康彦				前半	後半
役員B	高杉 祐介					
役員C	東 慶一				得点	
役員D	藤本 靖雄				前半	後半
1	川岡 靖弘					
2	助安 功成	/	/			
3	徳田 新成介				正	正
4	重岡 新介					2
5	木下 高紀				T	T
6	大久保 洋	/	/			
7	佐竹 叶多					1
8	難波 隆太	/	/			1
9	池岡 結夢					1
10	白川 大貴					1
11	山崎 将登					
12	佐藤 良哉					
合計					12	10

B 埼玉県		警告	退場	失格	チームタイムアウト	
役員A	和久 長義				前半	後半
役員B	大高 正人					
役員C	大市川 爽人				得点	
役員D	岩本 明				前半	後半
1	柳崎 雅俊					
2	加藤 真樹					1
3	玉川 裕康	/	/			1
4	斎藤 航大					1
5	松本 泰希					
6	野口 剛				T	2
7	下岡 大騎	/	/			2
8	中西 真					
9	山崎 雅登				下	正
10	本田 力弥	/	/			1
11	成瀬 隆太					1
12	高橋 弘人					
合計					6	11

タイムキーパー 西田 愛奈 スコアラー 上林 大貴

前半				後半			
背番	結果	得点	時間	背番	結果	得点	時間
5	1	3	30	3	13	1	25
3	2	4	32				
8	W	5	27	2	S	4	44
		6	33			5	32
4	3	6	55	7	W	7	
3	4	9	43	3	4	14	6
5	5	11	27	4	15	7	08
		11	33			7	39
3	6	12	28	3	16	8	21
8	7	15	25			8	49
		17	43			9	19
8	S	17	50	3	17	9	19
		19	22	6	S	10	13
		20	04	5	18	10	39
3	8	21	18	5	19	11	40
7	9	22	22	19	20	12	34
2	W	23	49			13	17
		24	42			13	58
3	10	25	13	7	S	14	48
3	11	26	18	7	S	15	20
		26	47			15	22
		28	31			16	22
3	12	28	51	9	21	16	54
7	12	29	48			20	30
						22	49
						24	03
						24	59
						25	48
						28	17

特記事項

マッパルサイン 伏藤 幸 審判員 杉山 寛政 審判員 各務 崇

ハンドボール

ぎふ清流国体ハンドボール競技

結果報告

No.12

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月7日(日)	試合記号	Aし	回戦	準々決勝
種別	少年男子	会場	飛騨高山ビッグアリーナ		
A(都道府県名)			B(都道府県名)		
山口県			埼玉県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
22	12	前半	6	17	
	10	後半	11		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【戦評】

記載者氏名 山下光二

1回戦29対19で三重を破った山口県は、岩国工業、下松工業を中心とした選抜チーム。接戦の末、32対28で兵庫に勝った埼玉は浦和学院を中心とした選抜チーム。スローオフは山口、先取点は埼玉7番下岡の速攻、山口5番木下の自力のロングシュートで同点。3番徳田、4番重岡のミドルシュート、3番徳田のカットイン、5番木下のミドルシュートで5点連続得点で前半11分30秒でタイムアウト。ディフェンスは埼玉6:0で山口は変則の4:2。山口は、3番徳田のミドル、6番大久保の速攻で前半15分で7対1で山口県のリード。しかし、埼玉7番カットインから山口8番難波の退場。そこから10番本田のポスト、4番斎藤の速攻で7対4で追い上げるも、山口3番徳田のミドルシュートが要所で炸裂。前半は12対6で山口のリード。

後半、この試合で好調な山口の3番徳田がカットインで8点目を決めるが埼玉6番野口のミドルシュートの連続と9番山崎のPTで追い上げて13対9と追い上げる。後半の10分間は互いに激しい攻防戦で18対11で埼玉は11点を決めた3番徳田にマンツーマンを仕掛けるが山口の5番木下のミドル、10番白川のカットインで埼玉を追い離す。埼玉1番キーパー柿崎の好守から27分、21対16と追い上げるが22対17で山口の勝利。敗者の埼玉は伝統のパスワークやステップシュート、視野外からのポストプレーが観たかった。